《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No. 2915

科目概要記入欄

1. 開設大学名	島根県立大学		科目開講 キャンパス	浜田キャンパス			
2. 科目名	正式科目名	環境政策論			クラス名		
	副題				配当年次	2, 3	
					受入学年		
	旧科目名						
	学問分野	番号	43	名称	環境		
	サテライトで開講される科目の科目群		A群	B群			
3. 担当教員名	沖村 理史						
4. 単位数	2 単位		5. 開講学期	秋（集中）			
6. 開講期間 曜日・時間	集中講義 調整中						
個別開講日	1 回目 /	2 回目 /	3 回目 /	4 回目 /	5 回目 /	6 回目 /	
	7 回目 /	8 回目 /	9 回目 /	10 回目 /	11 回目 /	12 回目 /	
	13 回目 /	14 回目 /	15 回目 /	16 回目 /	試験日	/	
7. 基礎知識の有無	1. 「基礎知識を必要とする科目」 () ②. 「基礎知識を必要としない科目」						
8. 募集人数 (総授業定員)	5 人 (人)		9. 定員超過時の 選考方法	書類選考			

10. 科目内容・授業計画	<p>20 世紀にグローバルな規模で発展した市場経済は、同時にさまざまな形で環境問題をもたらした。21 世紀は環境の時代と呼ばれているが、その環境問題の構造と本質を探ると、現代の社会経済システム（大量生産・大量消費・大量廃棄型社会）が抱える諸問題が明らかになる。本講義の目的は、以下の三点である。</p> <p>1) 現実に展開している環境問題の現状の把握とそれをとらえる視点の理解 2) 政策決定にあたり、直面するさまざまな側面の相互関連を自ら考える作業 3) 自ら考える作業を通じて出てきた問題点・意見の交換</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題に関する基礎知識と環境問題の構造に関する基本的な概念を説明できる ・環境政策に関する基本的な原理や概念を説明できる ・環境問題と環境政策の諸側面の相互関連を自ら考え、分析的に思考・表現することができる <p>【授業計画】</p> <p>I. イントロダクション／環境問題をめぐるさまざまな視点</p> <p>第 1 回 イントロダクション／大量生産・大量消費・大量廃棄型社会 第 2 回 視点(1) 環境と資源 第 3 回 視点(2) 廃棄物と環境 第 4 回 視点(3) 持続可能な発展</p> <p>II. 環境問題</p> <p>第 5 回 環境問題(1) 自然保護問題 第 6 回 環境問題(2) 水質汚染問題 第 7 回 環境問題(3) 大気汚染問題 第 8 回 環境問題(4) 廃棄物問題 第 9 回 環境問題(5) 循環型社会 第 10 回 環境問題(6) エネルギーと環境／放射性廃棄物問題</p> <p>III. 環境政策</p> <p>第 11 回 環境政策(1) 環境政策の政策サイクル、国家の取り組み：規制 第 12 回 環境政策(2) 国家の取り組み：経済的手法 第 13 回 環境政策(3) 国家の取り組み：その他の手法 第 14 回 環境政策(4) 社会の取り組み</p> <p>IV. まとめ</p> <p>第 15 回 今日の環境政策の課題</p> <p>【テキスト】 特になし、配布プリントに基づき講義する。</p> <p>【参考文献】 東京商工会議所編著『改訂 6 版 eco 検定公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター、2017 年。 交告尚史ほか『環境法入門 第 3 版』有斐閣アルマ、有斐閣、2015 年。 倉阪秀史『環境政策論 第 3 版』信山社、2015 年。 鷺田豊明、笹尾俊明編『循環型社会をつくる』岩波書店、2015 年。 新澤秀則、森俊介編『エネルギー転換をどう進めるか』岩波書店、2015 年。 大沼あゆみ、岸本充生編『汚染とリスクを制御する』岩波書店、2015 年。 鷺田豊明、青柳みどり編『環境を担う人と組織』岩波書店、2015 年。 OECD 編『第 3 次 OECD レポート 日本の環境政策』中央法規、2011 年。 細田衛士編著『環境経済学』ミネルヴァ書房、2011 年。 除本理史、大島堅一、上園昌武『環境の政治経済学』ミネルヴァ書房、2010 年。 勝田悟『環境政策』中央経済社、2010 年。</p>		
11. 試験・評価方法	出席（約 30%）、試験（約 70%）で評価する。試験は試験期間中に実施する。		
12. 別途負担費用			
13. その他特記事項			
14. サテライト科目の社会人受講について	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否